

しゃごうひょうせき  
多太神社の社号標石

能勢電鉄平野駅から南西に400mほどのところに「延喜式」という平安時代の書物にその名がみえる多太神社があります。その多太神社の鳥居から南へ坂を下り、国道173号と交わる所に高さ151cm(台石を含む)ほどで「多太社」と刻まれた石碑が建っているのをご存知でしょうか？

この石碑は「多太神社社号標石」といい、市の指定文化財に指定されています。

多太神社は、その昔、いつからかはわかりませんが、長らく「平野明神」と呼ばれていました。それが「多太神社」とあらためて認識されたのは、江戸時代、幕府の支援を受け、地誌を編纂するため古い記録を調べていた並河誠所という学者が「延喜式」に出ている多太神社はこの「平野明神」に違いないと判断したことによります。今後、この神社の古い由緒を忘れないようにということで、元文元年(1736)に設置されたのが、この社号標石です。同じ理由から、同時期に設置された社号標石が他に大阪、兵庫両府県に19基あり、近くでは宝塚市の売布神社にあります。

標石の建立にあたって、大坂町奉行所はこの建立は、寺社奉行の大岡越前守忠相の意向であるとし、設置にあたっては、並河誠所の弟子で摂津在住の久保武右衛門の指示に従うよう各村役人に伝えるとともに、標石には大坂の石屋が製作したものを使用し、それを引き取りに来るよう命じています。当時、平野村の人たちは、奉行所の指示に従い、標石を大坂まで取りに行き、設置したのでしょう。

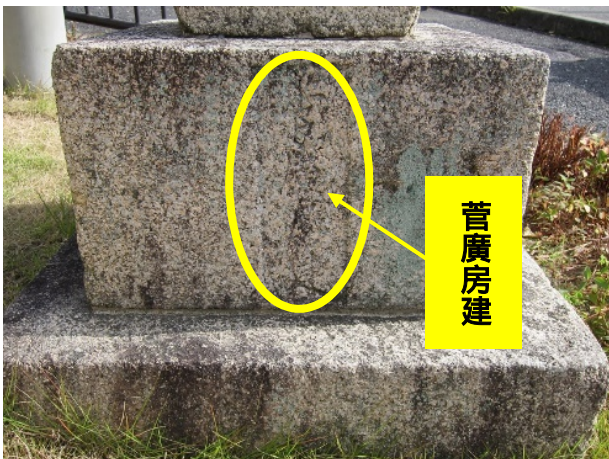
この標石の台石の裏側を見ると読みづらいのですが「菅廣房建」という陰刻がされています。この人物はこれらの標石製作に20両を出資した大坂の山口屋伊兵衛のことといわれています。



多太神社社号標石

その感謝の意から20基すべての台石にその名が刻まれています。

時代とともに忘れ去られてしまう歴史は、数多くありますが、この社号標石がある限り、多太神社の歴史は語り継がれることでしょう。



社号標石台石裏側